

とつと通信

2022年8月16日発行

233号

「とつと通信」は
略してとつと。
いつも読んでくださ
りありがとうございます。

こんにちは！平川です。連日の蒸し暑さに夏バテ気味の今日この頃ですが、お変わりありませんか？私、実は先月コロナになりました。仲良く妻も一緒に、熱はそれほどでもなかったのですが、なんせ喉が痛くて、三日間食事が取れず、水を飲むのも一苦労でした。おかげで、健康の有難みを再認識できました。どうか体調にお気をつけ下さい。話変わって、八月と言えば、夏休み、海水浴、花火大会と楽しい月の反面、原爆の日、終戦記念日、お盆と言った、平和や命について考えることの多い月でもあります。セミの鳴き声を聞くと、残り短い命を一生懸命に生きているぞ、と時折切なくにも聞こえるのは、そのせいでしょうか。そんな訳で今回は、命について書いてみますね。

では今月もはりきっていきましょう。毎年この時期になると、ある方より教えていただいた言葉を思い出します。「親死ね、子死ね、孫死ね」。これは一休さんの言葉とも言われていました。こんなお話です。とある町の庄屋さんに、とても可愛らしい孫が生まれました。たまたま喜んだ庄屋さんは、一休さんに何かでたい言葉を掛け軸に書いて欲しいとお願ひしたところ、一休さんは「親死ね、子死ね、孫死ね」と書きました。それを見た庄屋さんは「なんと縁起でもない言葉だ、一家を皆殺しにするつもりか」と激怒しました。すると一休さん「親が死んで子供が死んで孫が死ね。順番通りに死ぬのが一番めでたい事なのです」と言われたそうです。順番通りであれば家系は繁栄します。順番を間違えることほど、苦しく悲しいことはありません。言葉の意味を理解した庄屋さんは、大変喜んだそうです。ではもう一つ、「下坐に生きる」という本より一部抜粋します。乳ガンになった鈴木章子さんは、病院のベッドで気づいたことを大学ノートに書き残されます。それは五冊にもなりました。しかし症状は回復せず、46

歳で七くなります。そのノートから死の直前に書かれた、ご主人のことを詠んだ詞をご紹介します。「お父さん、ありがたう またあしたあえるといいね」と手を振るテレビをみている顔をこちらに向け、主人が「おかあさん、ありがたう またあしたあえるといいね」と手を振ってくれ、今日一日のしあわせが胸いっぱいにあふれてくる。そして朝は「お父さんまたあえたね」「お母さんまたあえたね」と恋人同士のような暮らしをしています。振り返ってみるとこの四十六年間、こんなあいさつを一度だってしたことがあったでしょうか。みんなガンをいただいて気づかされたことばかりです。」



私はこの詩に心打たれました。何度読んでも目頭が熱くなります。鈴木さんにとってもはやガンは、生命を蝕む恐ろしい不治の病などではなく、掛けがえのないことを教えてくれたありがたいメッセージだったのです。心が洗われるオススメの本です。

■神渡良平氏著

半年ほど前のことです。私の携帯に知らない番号から着信がありました。声の雰囲気からして、ご高齢の女性でした。「初めまして、〇〇の家内です。いつも手紙を送って下さり、ありがとうございます。うぐぐいます、あつ、とつと通信のことですか？」「はい、そうです。実は〇〇は、一年前より入院しておりました。お手紙を印刷して病院へ持っていくと、いつも楽しそうに読んでおりました。しかし先月亡くなりましたので、もう送らなくても結構です。よ、今までありがとうございました。10年前にお会いしたのが最後で、それっきりでした。電話を切った後に泣けてきました。人生に関わらせていただき、ありがとうございました。ごさいました。」

タイのCMをご紹介します。これが何度見ても涙がこみあげてくるんです。日本人が忘れかけている何かがあります。これ小中学校校でも流せばいいのに、URLをメールに添付していただけますので、もしよろしければご覧下さい。ではまた来月に。

発行／有限会社アサム
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
・専門学校&スクールサーチ : <http://www.asamnet.jp/>
・ブログ : <https://itorinri.com/>